

## 総務常任委員会行政視察概要

令和 5 年 8 月 3 日（木）

於 武蔵野プレイス 3階スペースE

午前10時00分～11時30分

- 1 調査概要・説明 …………… 武蔵野文化生涯学習事業団 生涯学習事業部長  
(武蔵野プレイス館長)

「武蔵野プレイスについて」

武蔵野プレイスは、平成23年7月に開館した地上4階、地下3階建て、延床面積約9,810㎡の、図書館・市民活動支援・青少年活動支援・生涯学習支援の4つの機能を有する複合施設である。

開設に当たっては、平成13年から新公共施設基本計画策定委員会により検討が開始され、設計プロポーザルを経て平成17年に基本計画を策定。その後、展示会や専門家会議にて市民意見を聴取、集約した上で平成19年に基本設計を修正、実施設計を策定した。平成20年以降は、所管部署が政策部局から教育部局へ移管され、条例制定や指定管理者の指定等を経て平成23年7月に開館された。

管理運営については、指定管理者として市の財政援助出資団体である公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団に委託しており、市とは月1回連絡調整会議を開催し、市民意見の情報共有や課題解決のための打合せを行っている。様々な機能を集合した新しいタイプの公共施設であることを生かし、それぞれの機能の連携によって付加価値の付いたサービスを提供することが可能となり、市民サービスの向上に寄与している。

施設の利用状況については、来館者数は開館以降右肩上がりに増加し、平成28年度には年間195万人以上の来館があったが、その後横ばいとなり、令和元年度以降は新型コロナウイルスの流行により来館者が激減し、以降徐々に回復しているものの、開館当初の来館者数を下回っている。利用者層は、20代以下で40%以上を占めており、市内と市外の居住者の割合は半々である。蔵書については、他の市立図書館と比較して雑誌の所蔵が多いことやインターネット検索性PCが多いことが特徴である。また、蔵書数に対して図書の出借件数が多いことから、図書館としての利用も他の市立図書館より活発であることが伺える。



## 2 主な質疑応答

問 当初の来館者数の想定と開館後の結果、その分析について

答 当初は年間80万人程度の来館を見込んでいたが、開館初年から150万人を超える来館と大変好評。駅からのアクセスも良く、土地柄文化への意識が高い住民が多い地区という面もあるが、図書館機能だけでなく、地下2階に青少年活動の場を設けること等により、若年層の来館が多く、他の機能との相乗効果により来館者数の増加に寄与している。

問 想定を上回る来館者数やデザイン性の高い建物であることによる維持管理への影響は。

答 来館者数が想定を上回ることに伴い、施設の老朽化も早く進行している。また、吹き抜け等のデザイン性の高い建築により、空調費用が通常よりかかっている。

問 他の市立図書館と比べて雑誌の蔵書数が多いが、それに伴う費用の増加についてはどのような議論があったか。

答 計画時点で費用面の指摘もあったが、施設設置によるまちのうるおい、活性化の効果は大きいと考えており、市民サービスが低下しないよう取組を行いつつ、ある程度採算度外視で施設整備を行った。

問 コロナが流行した令和元年度に来館者数が一気に下がり、その後も以前よりは回復していないが、その分析は。

答 コロナ以降の土日祝日の来館者数の減少が顕著なことから、利用者属性は10代と女性の割合が多いことから、子供連れの親子の利用者が多いと考えられる。コロナ禍以降は、オンラインが進展したことや子供連れの親は他の世代に比べ感染への警戒感が強いことから、コロナ以前のような来館者数には未だ届いていない

ものと考える。

問 開設の際に検討した「図書館と思われたい工夫」とはどのようなものか。

答 来館者が家にいるときと同じようにくつろげる空間、音や声を出しても良い空間を目指し検討を行った。当初は、子供の泣き声やカフェスペースでの料理のにおい等を懸念する声もあったが、フロアによって棲み分けを行うことで実現することができた。

問 図書館以外の機能の配置、開館時間の検討等について

答 図書館スペースの他、市民活動スペース、青少年活動スペース、生涯学習スペースを複合的に配置することにより、利用する各グループ間での交流が起これ、相乗効果が生まれている。利用時間は、都心との距離や仕事帰りにでも立ち寄ることができるように、他の市立図書館よりも長い22時閉館とした。

問 本市でも図書館を含む複合型施設の建設を検討しているが、武蔵野プレイスの半分以下の延床面積でも同様の効果を期待できる施設が建設可能か。

答 武蔵野プレイスは、来館者にゆったりとくつろいでもらえる空間をコンセプトに設計されており、空間の配置を広々と取っている。導入する機能を検討することによって効果的な施設を建設することも可能。まずはどのような施設にしたいかというコンセプトを検討することが大事。

以 上